

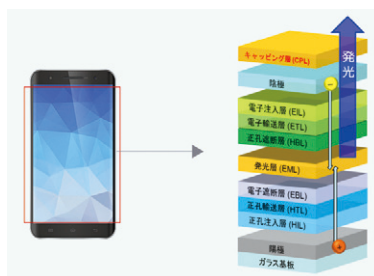
Cutting Edge

有機EL市場は、スマートフォンに加え、タブレットやノートPC、テレビなどへと用途が拡大し、中長期的な成長局面を迎えています。保土谷化学グループは、20年以上培ってきた材料開発技術とグループシナジーを強みに、事業基盤の強化と研究開発・生産体制の拡充を進めることで、有機EL市場のさらなる成長を支えています。

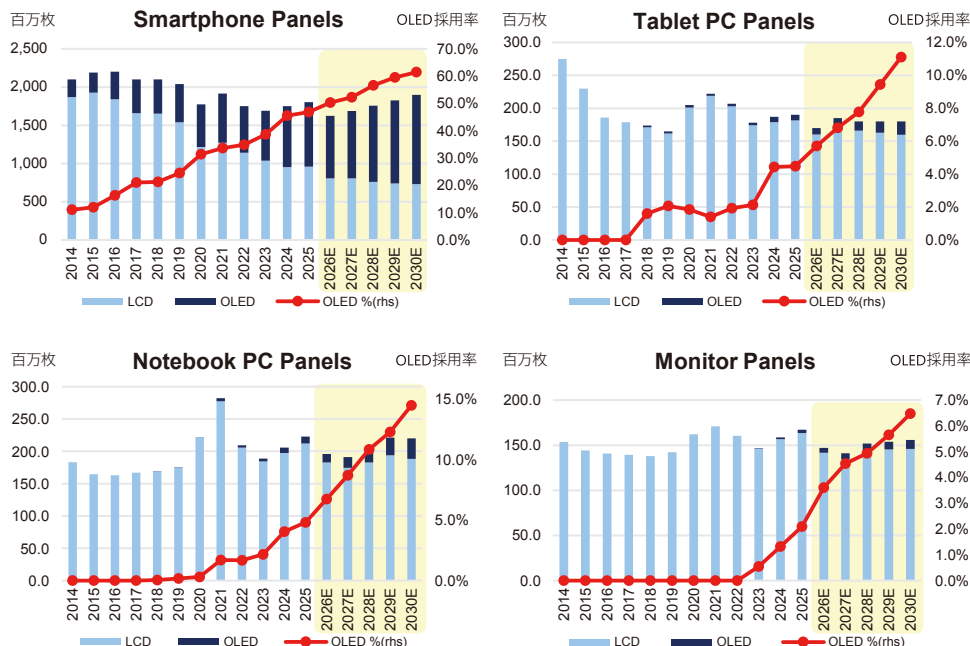
有機EL事業の高度化と領域拡張

広がる市場が生む新たな事業機会

近年、耳にする機会が増えた「有機EL」。保土谷化学グループは、有機ELの技術を支える材料の研究開発に20年以上前から取り組んでいます。有機ELパネルは、薄さや軽さという特徴に加え、優れた色再現性、フレキシブルな形状を実現するフラットパネルで、液晶パネルとは一線を画すディスプレイ技術として注目されて



有機ELの構造



* 出所（データ及びグラフ）：みずほ証券エキスティブ調査部

います。有機ELパネルは、現在スマートフォン用の小型パネル市場では主流となっており、2026年を境に有機ELの採用率が50%を超え、液晶パネルを凌駕する主流デバイスへと定着する見通しです。さらに、タブレット端末やノートパソコン、ゲーム用モニターなどの中型パネル市場、テレビ用の大型パネル市場でも、高画質・高機能ニーズを背景に液晶から有機ELへの切り替えが進み、中長期的な成長局面を迎える見通しです。

独自技術で支える材料開発力

保土谷化学グループでは、長年培った合成技術や精製技術、電荷輸送材料で蓄積した実績、および優れた分子設計技術を活かし、「電子遮断層」(EBL)に使用される材料を開発・製造しております。これらにより、有機ELの長寿命化、高耐久性を実現するとともに、発光材料・ホール注入材料などの開発も、鋭意進めています。また、光学シミュレーション技術等を活かして、高屈折率・低屈折率を実現する「キャッピング層」(CPL)材料の開発にも取り組んでいます。これらの核となっている技術は、イメージング材料のひとつである「電荷輸送材料」(CTM)を応用したものです。

共創が生み出す競争優位

保土谷化学が強みを持つ「正孔輸送材料」と、韓国における確かな技術力によって生み出される「発光材料」とのシナジーで、特徴的な有機EL材料をご提供できる点が大きな優位性です。これからも、有機EL材料のリーディングカンパニーとして、国内外の代表的なパネルメーカーに材料を提供していきます。染料からイメージング材料へ、イメージング材料から有機EL材料へ。そして、核酸医薬材料や半導体材料へ。保土谷化学グループは時代の流れとともに発展し続けます。

韓国における人材・設備への投資拡大

競争優位性をもつ有機EL・青色発光材料等は、現在スマートフォン需要を中心とする有機ELディスプレイが、今後、タブレットやパソコン等の中型ディスプレイにも適用が拡大されることにより、更なる成長が見込まれています。

この機会を確実にとらえるため、韓国に保有する豊富な生産能力をさらに強化すべく工場を設立し、有機EL材料事業の体制を整えています。また、有機EL材料事業で培った技術を応用し、Bio事業に係る研究開発・生産拠点を新設、稼働させ事業領域の拡大を進めています。さらに、出荷等を担うストレージセンター、オフィスや会議室の拡充とともに、優秀な人材獲得を継続することで、新たな材料等の研究開発をさらに進めていくことが可能になると考えています。

Cutting Edge

これまでの延長線上にない“非連続”な事業への展開

保土谷化学グループは、長年培ってきた有機合成技術とモノづくり力を基盤に、パートナーとの協働やグローバルな事業展開を通じて、新たな成長領域への挑戦を進めています。核酸医薬分野への展開、産学共創によるイノベーション創出、戦略的M&Aによる事業基盤の強化など、「コード2030」の成長戦略を具体化する取り組みを着実に推進しています。

核酸医薬、有機合成薬品工業との協働

核酸医薬品は、オリゴ核酸を基本骨格とし、従来の低分子医薬品、抗体医薬品では治療困難だった遺伝性疾患、希少疾患、がん等に有効な次世代医薬品として注目を集めています。保土谷化学グループは、バイオ材料分野において有機EL事業で培った技術を応用し、原料素材の独自開発や研究用・非GMPオリゴ核酸の受託合成事業を展開し、少量多品種生産における高い機動力と製造インフラを強みとしてまいりました。有機合成薬品工業は、長年にわたる低分子医薬品製造事業を通じて、GMP基準に準拠した高度な製造管理・品質管理体制、及び核酸関連化合物の製造に関する知見とノウハウを有しております。本協働により両社の強みを融合させ、アカデミアや製薬企業を始めとした全世界のステークホルダーに対し、核酸医薬の原料素材からGMP製造までワンストップで対応するソリューションの提供を目指してまいります。

また、保土谷化学グループにおいても、核酸医薬の原料素材からGMP製造まで、一貫して対応できる体制を構築する方針を固めております。主力工場である郡山工場に、合成設備やクリーンルームなどを備える新棟を整備する予定です。



GMP施設イメージ図

東北大学との共創研究

当社は2026年6月、中期経営計画に掲げるオープンイノベーション戦略の第一弾として、東北大学多元物質科学研究所内に「モノづくりで持続可能な社会に貢献する共創研究所」を設置しました。3年間の計画で、クロスアポイントメント制度を活用し当社研究員が特任教員として参画します。

当社の強みである機能性有機材料は、光の吸収のみならず、光、熱、電気などのエネルギー変換や放出といった多彩な機能を有し、エレクトロニクス、ライフサイエンス、環境、インフラなど、現代社会のあらゆる場面で不可欠な役割を果たしています。持続可能な社会の実現に向けて、激しい市場変化や社会的要請に伴い、迅速な社会実装が求められています。本共創研では、東北大学の高度な学術知見と当社のモノづくり技術を融合させ、従来の段階的な開発から、研究と社会実装をシームレスに行う一体的体制へと変革します。具体的には、微量有害物質などの環境課題への対応、高耐久デバイス用材料の開発に挑みます。産学の横断的な協働により新材料創出を加速させるとともに、生きた経験を通じて次世代の研究開発リーダー育成にも繋げ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



Framochem（ハンガリー）買収について

2026年3月、当社はハンガリーに本拠を置くFramochem Francia-Magyar Finomkemiai Kft（Framochem）の全持分を取得し、完全子会社化することを決定いたしました。

当社は、中期経営計画「コード2030」において、機能性樹脂セグメントにおける特殊化学品事業の強化・拡大を、取り組むべき事業成長戦略の一つとして位置づけております。

本買収は、この成長戦略を具現化するものであり、保土谷化学グループの持続的な企業価値向上に向けた「非連続的な成長」を実現するための重要施策となります。

Framochemの持つ欧州での高い信頼と独自の製品群を当社のグローバルネットワークに取り込むことで強固な成長基盤を構築するとともに、高度な技術を要するホスゲン誘導体の生産拠点を日・欧の2拠点体制とすることで、「グローバル・ニッチトップ」の地位を確固たるものにしてまいります。



Framochemの拠点